

「東日本大震災に学ぶ―群馬の備え」講演会

主催 公益社団法人地盤工学会 関東支部
 共催 公益社団法人土木学会 関東支部群馬会
 後援 財団法人群馬県建設技術センター

この度、標記の群馬県グループ企画行事が予定通り完了したので、報告します。

1. 日 時 平成 23 年 11 月 22 日 (火) 13:00~17:20
2. 会 場 群馬建設会館 (群馬県前橋市元総社町 2-5-3) Bホール
3. 参加費 2,000 円
4. 参加者 62 名 (講演者, スタッフ除く)
5. 演題, 講演者 (所属・敬称略)
 - (1) 東北地方太平洋沖地震の概要と地震動の特徴 (中村 晋)
 - (2) 東北地方太平洋沖地震によって福島県白河市で発生した地すべり災害 (武士 俊也)
 - (3) 被害報告 (県外/造成宅地) (若井 明彦)
 - (4) 群馬県五料橋の被災および復旧状況について (滝野 厚)
 - (5) 被害報告 (福島県藤沼湖の破堤と群馬県内ため池の被災状況) (樋口 邦弘)
 - (6) 平安時代 818 (弘仁 9) 年の地震による地形変化と災害 (早田 勉)
 - (7) 災害に対する群馬県の備え (坂尾 博秋)

講演会ではまず、日本大学教授 中村晋先生に、今回の地震による代表的な被災例や地震動の特徴についてご講演をいただいた。幅広い内容を解り易くご説明いただいたほか、耐震設計法の見直しなどの問題提議もなされた。続いて、土木研究所 武士俊也氏にご登壇いただいた。主に地震発生直後の土砂災害調査について豊富な写真を用いて説明され、白河市周辺での土砂災害の特徴についても述べられた。

休憩を挟み、群馬県グループの若井、滝野、樋口が被害報告を行った。若井は、宮城県内の宅地造成地における被害状況を紹介し、その特徴と問題点について述べた。続いて滝野は、国道354号五料橋の被害と復旧対策、群馬県の今後の対応について述べた。また、樋口は、福島県藤沼湖の破堤状況や群馬県内のため池被害について報告した。

地震災害が少ないとされる群馬県であるが、遺跡などに818年に発生した大地震の痕跡が認められている。これを広く知って貰うため、(株)火山灰考古学研究所 早田勉氏に、遺跡発掘時の貴重な写真を用いてご講演いただいた。最後に、群馬県グループ坂尾が、災害に対する群馬県の対応について、自身の経験を織り交ぜて紹介した。

限られた時間の中で駆け足の講演会ではあったが、事例紹介から検討課題の整理まで、県内技術者に対して有意義な情報提供ができた。(文責 栗原)

